岐阜大学附属図書館報　ISSN 0915－8960

寸　胴

THE GIFU UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN　第18号　1996.2

目　次

モンゴル草原への誘い　天谷　孝夫 …… 1
館蔵資料紹介No. 9
今西文庫と今西錦司先生　藤井　洋 …… 3
機種更新に伴う新図書館システム …… 5
1996年度　購入雑誌変更リスト …… 6
司町、那加そして柳戸へ　小林かず子 …… 8
お知らせ …… 8

モンゴル草原への誘い

天谷孝夫

私はいわゆるモンゴル大好き人間ですが，日本人には結構同類の方がおられるようです。ただ，モンゴルの実態については，案外知られていない様ではあります。キーワード的に列挙すると，チンギスハーン，遊牧，蒙古斑，元寇，ノモンハン事件位のものでしょうか。

モンゴルという名称で代表される地域は，現在の国際行政区分からみると，独立国であるモンゴル国（いわゆる外モンゴル）と中華人民共和国の内蒙古自治区とで大部分が構成されます。前者の面積は約150万㎢（日本の約4倍）で人口は僅か200万人強ですし，一方後者の面積は約118万㎢で人口こそ2000万人と多いものの，その内の1700万人は漢民族で，少数民族であるモンゴル族はわずかに300万人程度に過ぎません。それというのも，モンゴル族が生活する地域は概ね標高1000m以上の高原地帯にあり，自然条件が遊牧に適した，換言すれば非常に厳しいものですので，養いうる人口も自ずから限られたものとならざるをえないわけです。

さて，なぜこの様な所に興味を持ったかについて，些かお話ししたいと思います。私は，以前から中国とその周辺に居住する少数民族に対して，限りない興味というか親しみを感じていました。そして，その代表がモンゴル民族でありました。とは言っても，なぜモンゴルであるかについては，なお若干の説明がいるようです。つまり，日本人一般の義経伝説を主とするモンゴル好きの血が，私の場合は人よりやや濃かったことが始まりのようです。圧倒的に優勢な漢民族に対して，極めて少人数の騎馬民族が敢然として戦いを挑み，かつ高い誇りを持って堂々と対等に振舞う姿に，強烈なイメージを抱いたからかも知れません。でも，決定的だったのは，確か高校2年の国語の副読本で読んだ，中島敦の「李陵」から受けた衝撃でした。それ以来ずっと，中島敦は私の最も尊敬する作家となっています。彼は，昭和18年に僅か34歳で死亡したため残された作品は少ないのですが，何れも高い評価を得ています。特に，「李陵」は彼の地で中国語訳され出版されたほどの作品であり，私が深い感銘を受けたのも当然と言えましょう。内容は，漢の武帝の天漢2年（前99）秋9月に，居延塞（現在の内蒙古自治区エチナ旗付近）を歩兵のみ5,000名を引き連れ，北方のアルタイ山脈の東南端がゴビ砂漠へ没する辺境に，匈奴の姿を求め出撃した李陵と，捕虜となった李陵を弁護したがために宮刑に処せられた「史記」の作者司馬遷，それに漢の平和の使節として匈奴を訪れ長期間囚われの身と

なった蘇武との，三者三様の苦難と運命とを描いたものです。それ以来，私にはいつかモンゴル人の国を訪れることが夢となりました。ただ，匈奴が現在のモンゴル人の祖であるかどうかは未だ不確定ですし，今のモンゴル人の居住地域分布が確定したのはずっと後のことですから，厳密には私が惹かれたのはモンゴル高原を中心に活躍した騎馬民族全般であったと言えましょう。

それ以来，自分なりに歴史書や小説等でイメージを膨らませて行ったのですが，文字通り分からないことだらけでした。その中でも，どうしても気になることの一つに，日本で「ノモンハン事件」と呼ばれる1939年に発生した，時の満州国とモンゴル人民共和国との国境を巡る紛争がありました。なぜ，モンゴル草原の一角の呼倫貝尓（ほろんべいる）沙地を流れるハルハ河畔という辺境地帯で，いわゆる“局地戦争”が勃発したのかが理解し難かったのです。どうして何万人もの日本人が死傷しなければならなかったのか，戦争遂行者の責任はどうなったのか，この事件（モンゴルではハルハ河戦争と言います）がモンゴルに与えた影響はどの程度であったのか，知りたいことばかりでした。それやこれやで，何とかしてモンゴル人の国を訪れたいという想いは募る一方でしたが，でも無理だろうと諦めてもいました。何しろその頃は未だソ連が健在であり，日本との交流がようやく進みだしたのは1970年代に入ってからだったのですから。

このような，モンゴルへ行きたいという私の夢が幸運にもかなえられたのは，1977年の11月でした。当時在職中の岡山大学農学部を中心として継続中の学術調査のメンバーとして，モンゴル人民共和国の首都ウランバートルとその周辺を訪れることが出来たのでした。まだまだ，「モンゴルってどこ？」と聞く人が多い頃でしたので，いきなりモンゴルの中心地にわが身をおくことが出来たそのときの感激は，今でも鮮明に思い出すことが出来ます。季節は，11月から12月にかけての初冬でしたので，零下20℃の厳しい自然を実感出来て，それはそれで得がたい経験でしたが，いつか豊かな夏に再訪したいと思いながら，まだ果たせていないのが残念です。

その代わりと言っては何ですが，1986年以降毎年のように中華人民共和国の内蒙古自治区のあちこちで農牧調査を行うことができ，有難いと思っています。この両モンゴル地区が，独立国と大国中の１地方政治区とに分かれて存在している経緯について触れる余裕はありませんが，たとえ一部とはいえ少数民族の独立国が存在していることは，歴史的にみて希有のことだとは申せましょう。とにかく，1986年の７月に内蒙古自治区の首都の呼和浩特（ふふほと）市にある内蒙古農牧学院を訪問し，以来相互交流の実を深めつつ研究の進展を期しています。

この様な私にとっての現在の楽しみは，モンゴルの歴史を学ぶという，病膏肓の重症段階に至っています。そうは言っても素人の情報網など高が知れたものですので，随分勝手な本の選び方をしてきたのでしょう。実は白状しておかなければならない真実があります。それは，私が図書館をほとんど利用しない人種であると言うことです。素直に図書館のお世話になっておけば，もっと効率的に高度な文献に触れ合えたのではと反省しています。でも，モンゴルに関し興味を抱いた書籍は全て座右に置きたいとの願望から，経済的に無理をしても本屋との付き合いを重視したのでした。

今この一文を物しながら，買い溜めた本類をながめています。感慨深い点は，元来遊牧民族はほとんど自らの記録を残さなかったため，私が学んだ歴史の原典の多くが周辺の定住農耕民族に依存したことから生まれた誤謬の大きさでした。典型的な例はモンゴル帝国に対する中国王朝の見解にみられ，全てモンゴル人の功績を完全に否定する内容であり，私もこれを踏襲した大家による説を鵜呑みにすると言う誤りを犯してきました。しかし，杉山正明さんにより最近出版された「大モンゴルの世界：角川選書」と「クビライの挑戦：朝日選書」を読み，正しく目から鱗が落ちると言った感じでモンゴル人の偉大さを確信しました。まことに，ねじ曲げられたモンゴルの歴史観を唯々諾々と許容してきた自らの不明を恥じると共に，狂信的な思想による作為の恐ろしさをも強く認識しました。

大好きなモンゴルに対するこれまでの一部鬱屈した感情が払拭され，私はとても伸びやかな精神状態にあります。これまで訪れた各地の草原地帯の情景が生き生きと個性を持って想起され，そこで生じた歴史的事象が鮮烈なイメージで浮かび上がってくるような気がするのです。次にモンゴルを訪れるときは，一体どの様な知見が新たに得られるだろうかと，心待ちにしています。ただし，その前に図書館をお訪ねし，モンゴル関連文献をお教え頂かないと。

皆さん，一緒にモンゴルへの旅に出かけませんか。

（あまや　たかお：農学部教授）

館蔵資料紹介　No. 9

今西文庫と今西錦司先生

藤　井　　洋

わが図書館には，今西文庫と呼ぶ本のコレクションがある。約2,800冊の本，370冊の冊子，おびただしい数の学術雑誌および山の雑誌から成る。元岐阜大学学長今西錦司先生の蔵書である。しかし学生諸君に，「今西錦司って誰か知ってるか」と聞いても誰も知らない。そこでこの機会に私の知る今西錦司先生を記し，今西文庫の紹介とさせていただくことにしたい。

今西先生は1902年（明治35年）京都の西陣織の織元の家に生まれた。大変味にうるさく，「味がわかるようになるには三代かかる，わしはその三代目なんや」とよく言っておられた。お酒が実にお好きで，煙草は亡くなる直前まで吸っておられた。三高から，京都帝国大学農学部を卒業後，理学部の助手になり動物生態学を研究。かたわら西堀栄三郎，桑原武夫といった人達と一緒に現在の台湾，樺太(サハリン)，朝鮮半島も含む全国の山々を登っておられる。太平洋戦争が始まる直前に，名著『生物の世界』（図書請求記号：468,Ima)を発表された。蒙古へ行く前に遺書のつもりで書いたのだそうだ。有名な「棲み分け理論」がその骨格である。今では「政治家が棲み分けている」なぞという使い方までされるほどポピュラーな言葉になっている。

つい先日，今西先生の後継者である伊谷純一郎先生から終戦直後のお話を聞く機会があった。当時学生だった伊谷先生が今西先生を訪ねていくと，机も椅子もすべて無くなった研究室のコンクリートの床に畳が一枚敷いてあり，そこに今西先生が座っておられたそうだ。これが都井岬の野性馬，高崎山の猿，アフリカのゴリラ，チンパンジーへと続く今西・伊谷研究チームの誕生だったことになる。一頭一頭にすべて名前を付け，血族関係から性格まで明らかにしていく独創的な手法によって多くの研究成果が生まれ，いまも生まれつつある。

当初のフィールドは宮崎県，鹿児島県で，米持参で営林署の施設を泊まり歩いたそうである。その頃のことで実に無茶苦茶な話を聞いた。伊谷先生はこの話は二度とは話さない，書かないと言われるので私がここに書いておく。「ある調査行で山を歩いていたらギボシが群生していた。今西先生がこれは今夜のおかずにいいからいっぱい採っていけと言われ，これを夕食にさんざん食べた。ところがギボシと思ったのが実は毒草のバイケイ草で，二人とも強烈な吐き気に襲われ，縁側から身を乗り出して一晩中ゲーゲーやり，女子職員の方にお医者さんを呼んで貰う騒ぎになった。朝起きて庭を見ると鶏が16羽死んでいる。二人の吐いたゲロをつついて，その毒に当たって死んでしまったのだ。女子職員の方が，署長さんの大事にしていた鶏がこんなになってしまって，署長さんが帰ってこられたら私はどうしようと，おいおい泣きだして止まらない。気の毒なのでなんとかせねばと思い今西先生に報告にいくと，『逃げよ』とひとこと。」そして本当に逃げ出してしまったそうだ。

その後の今西先生の学会での御活躍は省略するが，山については一言だけ述べておく。1950年代に入ってネパールへの入国が可能になるや，アンナプルナをかわきりにヒマラヤの8,000m峰が続々と登られ始めた。日本はひとつも登っていない。先生は京都学士山岳会をひきいてマナスルの調査を行い，登路を見つけ，これを日本山岳会に引き継いだ。これによって辛うじて日本はひとつの8,000m峰の初登頂記録を持つことになっているのである。

さて，私が今西先生に始めてお会いしたのは岐阜大学が先生を学長にお迎えした翌年，1968年の１月である。午後６時頃学長室へ来いという呼び出しを受けた。赴任したてで27才の私はいったい何事だろうとおそるおそる行ってみた。薄暗い部屋の大きな会議室用のテーブルに一升瓶が数本と湯のみ茶碗が置いてあり，正面にえらく顎の長いおじさんが座っていた。山賊の親分と変わりはなかった。日本登山界の大先達，日本における霊長類学の創始者今西錦司だった。「奥美濃の山はええでえ」と盛んに言っておられた。その頃の私は，奥美濃なんか一番高い能郷白山でさえ1,400mそこそこなのにいったいなにが良いのかさっぱりわからなかった。

ほどなくして，その奥美濃の山へ行こうというお誘いを受けた。千ケ沢山と不動山である。当時徳山村の門入には徳山小学校の分校があり，そこに泊めていただいた。私が着いた時には，教室の机と椅子を片付けて酒盛りの真っ最中であった。先生はこの分校の先生の奥さんを相手に得意の猥談をやっておられ，「これは性教育やって，大事なことなんや」と威張っておられた。翌日の山行は驚きの連続だった。まず今西先生の馬力である。当時66才の結構なお年だったが，残雪を踏みながらどんどん登っていかれる。もちろんこの辺の山には道なんかないから，ときどきどちらに行こうか迷うところがある。トップの者が「右に行きましょうか，左に行きましょうか」と聞くと，「真直ぐやあ」とか答えられるのだが，その判

断が実に的確なのである。もっとも，これは今西先生にお付き合いして何度か山に登るうちにわかってきたことだが，先生自身が判断に迷うようなときは，いつも「真直ぐ行け」と言っておられる。

そこで出たのが海外遠征の話であった。いわく「岐阜大学の山岳部には45年の歴史があるやけど，まだ一度も海外遠征はやっとらん」。これは強烈な刺激だった。早速，当時日本人は誰も入っていなかったアフガニスタンのワハン渓谷に入り，アム・ダリアにそそぐペギッシュ氷河上部の6,000m級の未踏峰に登る計画を持って行った。「これは実力に応じた良い計画やな，わしも昔からワハン渓谷には注目しとったんや。よしこれでいこ。わしのできることは，なんでもやるで」という御返事だった。

普通，私のできることならなんでもやるというと，何もやらないというのとほとんど同義である。今西先生の「何でもやるで」はまったく違った。遠征のイロハを手取り足取り教えていただいた。平林芳夫教授を隊長とする遠征隊が組織された。

遠征隊は1969年6月中旬に出発し，7月下旬ペギッシュゾムおよびコーイ・ファルザンド2座の初登頂に成功した(図書請求記号：和冊子1,48&49)。支援してくださった岐阜大学の多くの方々の声援の賜であった。今西先生はことのほか喜んでくださり，盛大な祝賀会を開いてくださったものである。

その後今西先生の山行には機会あるごとに御一緒させていただいた。あるときは民宿で山菜をつまみに，あるときは雪の中でたき火を囲んで座り込み，酒を酌み交わしつつ，深更に至るのが常であった。

それにしても先生は座談はうまかったが，講演は実に下手だった。三度ほど講演を聞いたがその話振りたるやさっぱりインパクトがない。そのときの講演がそのまま活字になって雑誌に載ると実に迫力のある内容なのだから，やっぱり話し方が下手で，聴き手に対するサービス精神が皆無なのである。現在のキャンパスへの統合時に「統合の理念」という文書を書かれた。理想を求めてやまない若さ溢れる素晴しい文章である。もしこの調子で各学部の教授会などで演説されたならば，統合はもっとスムースに進んだに違いない。

岐阜大学の学長を退かれてからは，悠々自適の生活に入られた。山へ登られる頻度は益々激しくなり，一年に50座～70座は登っておられた。文化功労者に選ばれたり，文化勲章を受賞されたのもその頃である。しかし進化論完成への意欲はいささかも衰えておられなかった。私が1977年から2年間イギリスのマンチェスター大学に行くことになりそれを報告に行くと，「ロンドンの古本屋を回ってやな，ダーウィンの『種の起源』の初版本を探して送ってくれや」と依頼された。そこでロンドンに出るたびに古本屋を探しては聞いて回った。もうあきらめかけたとき，ある教会で物故者の蔵書の中に種の起源を見つけた。しかし，残念ながらこれもまた1967年に再版されたものだった。がっかりしながらも再版にあたっての序文を読んでみると，これはなんとダーウィンの進化論に対する強烈な批判である。さっそく買い求めて今西先生にお送りした。小さい文字には随分閉口されたらしいが，丁度執筆中だった『主体性の進化論』(図書請求記号：467.5,Ima)にこのW. R. Thompsonの序文の概要が13

ページにわたって(pp.73－86)引用されている。ダーウィンの進化論に一人だけで異を唱えて平気だった今西先生ではあったが，別な根拠からではあっても疑問を投げかけている人がいたことを知ってやはり嬉しかったのではあるまいか。ダーウィンの進化論に，「…かくして仮説の上に仮説を重ねたはかない塔ができあがった。」と言ってはばからないこの序文を，「なんというきびしく，またおそろしい解説であるだろう」と評しておられる。

ちなみに，私の理解する限りでは，ダーウィンの進化論と今西進化論の違いは次の点にある。ダーウィンの考えかたの基本は，生物にはある確率で突然変異が現われ，このうち最も環境に適した個体が生き残るという突然変異―適者生存（自然淘汰）の原理にある。これに対し今西進化論では生物はそんな頼りない突然変異に頼っていては生き残れないと説く。一匹のサケは何万個という卵を生むが，そのうち数匹しか生き残れない。どの卵が生き残っても種が保たれるようでなければならないはずだ。環境の激変があって種が変化しなければならない時は，その種が全体として変化していくのだというところが出発点になっている。私にはこの今西進化論のほうが余程説得力があるように思われるのだがどうだろう。

この本を最後に先生は執筆をやめられた。眼がほとんど見えなくなったためである。それでも，「これはわしの触角なんや」と言って，細い枝を杖にして山を歩かれた。残雪のぶんげん山に登ったときには，頂上で大いに飲み，歌い，そのため最後の雪の急斜面を下るころには陽がとっぷりとくれてしまった。このときにも，「わしには関係ない。どうせ下りは見えへん」と大笑いしておられた。そのうち腰と膝が曲がりにくくなり，山靴の紐が結べなくなった。その頃，私のオーストラリアの友人も一緒に飛騨の山にお供したことがあった。その友人が今西先生の歩くのを見ていて，あの老人の気迫は凄いね，いったい何者なんだと聞いてきたのを思い出す。

（ふじい　ひろし：工学部教授）

（配置場所：3階特別閲覧室）

機種更新に伴う新図書館システム

図書館システムの機種更新が，平成７年10月にありました。今回の機種更新は，２回目になりますが，これまでの経緯及び前回との変更点を中心に今後の動向も含めてお知らせします。

＜経緯＞

◎岐阜大学附属図書館では，昭和50年に雑誌目録を汎用機で出力して以来，図書館専用電算機システム予算が認められた平成３年度までの間，情報処理センターの汎用機を利用し，図書館員による図書館業務の電算化を進めてきました。その間は，情報処理センターのレンタル機器の導入の際に図書館の意向を聞き入れて頂くなど，歴代のセンター長やセンター員の方々の暖かい配慮や支援によるところが大であり感謝しています。

◎情報処理センターに依存しきっていた電算システムでしたが，平成３年度に認められた図書館専用電算機システム予算による図書館専用パッケージソフト導入により，種々の問題点が出始めました。図書館専用電算機システム予算では，当時はオフコンレベルの図書館システムしか導入することができませんでした。大量入力や大量出力等の汎用機のもっとも得意とする処理については，どうしても従来通り情報処理センターの汎用機器を利用して行う必要がありました。また，端末についても，業務に十分な台数が確保することができないことから，従来通り使用料を情報処理センターに予算替えして確保するといった状況でした。図書館としては，図書館専用電算機システム予算が付いてからも情報処理センターの協力は，不可欠でした。

◎図書館では，図書館システムそのものや端末の不足等，予算の制約による諸々の問題を感じていたところに，情報処理センターから次回の機種更新を図書館と一緒にできないかどうか打診を受けました。図書館としては，願ってもない提案と受け止め，早速館内で検討を重ねました。その結果，全システムをUNIX版図書館システムに移行するには，時期尚早との判断から，次期機種更新までは，汎用機依存の今までのシステムとOPAC部分だけのUNIXシステムの併用システムとする方針を固めました。この方針は，図書館専用電算機システム予算だけで賄うことは不可能で，情報処理センターと一緒に契約することを前提としたものでした。

＜変更点＞

◎今回の機種更新の大きな特徴としては，将来の全面的なUNIX版図書館システム移行に向けてUNIX版図書館システムの一部分導入がありますが，同時に利用者の皆さんに迷惑をかける部分や端末台数等の問題もあります。

導入したUNIX版OPACシステムは，利用者にとって図書館システムの各サブシステムの中で直接触れるシステムであり，特に従来の汎用機用OPACに慣れた利用者には，検索方法の変更等により暫くは，戸惑いを持たれることと思います。また，ワークステーションや周辺機器のハードウェアやソフトウェアの増設等により，しわ寄せが端末台数の現状維持となって表れて，当初思っていたような端末の増設は無理になりました。ただし，OPAC端末については，専用端末としての台数は従来と同じになっていますが，図書館の２階目録コーナーに情報処理教育自習用端末としてOPAC用にも使用できる端末を今回新たに10台設置しました。実質的には増設となっています。

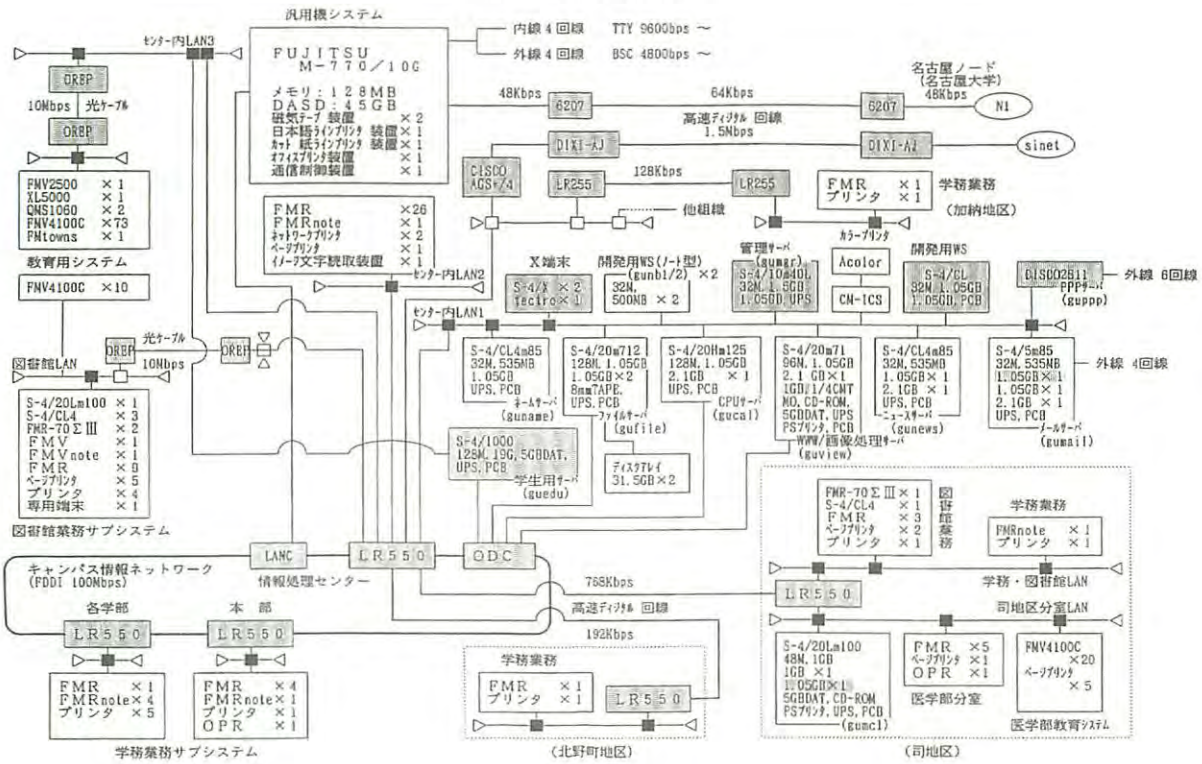
◎汎用機を使用した図書館システムのソフトは，従来と全く同様ですが，ハード面では，情報処理センターの厚意により，ほぼ図書館の意向通りの更新になっています。例えば，メモリーやディスク容量のアップにより，レスポンスやバックアップ時間の短縮に大きく効果が出ています。利用者の皆さんは，OPACを使用した時のレスポンスにより直接実感できることと思います。

＜今後の展開＞

情報処理センターが以前から要求していた概算要求が認められ，平成８年度から総合情報処理センターとして省令化されることになりました。このことに伴って，次期機種更新が約３年早まることになりました。今回の機種更新時の“次期機種更新まで４年はあり，その間に全面的UNIXシステムへ移行する”といった当初の計画は，大幅に方向修正しなければならない状況になっています。

利用者の皆さんには，更新の都度ご迷惑をおかけしますが少しでも使い勝手の良いものにしていきたいと心がけ，また，皆さんの要望等も取り入れたシステムにしたいと考えています。ご理解とご協力をお願いします。

センターシステム構成図



1996年　購入雑誌変更リスト

〈新規購入雑誌〉

誌名	配架
心身医学	医神精
園芸新知識：花の号	農農場
化学と生物	農高分
家族療法研究	医神精
学校教育研究	教CR
看護教育	医短老
看護実践の科学	医短老
看護展望	医短老
季刊経済と社会	教法経
基礎ドイツ語	図文学
経済	教法経
月刊切抜き：体育・スポーツ	医短保
月刊切抜き：保健	医短保
月刊しにか	図文学
現代英語教育	養英語
現代化学	農高分
国際問題	教法経
こころの臨床ア・ラ・カルト	医神精
思想	教法経
児童青年精神医学とその近接領域	医神精
精神科治療学	医神精
精神分析研究	医神精
精神療法	医神精
生物工学会誌	図生物
大学の物理教育	養物理
中国語	養中語
調剤と情報	病薬剤
日経パソコン	農農計
日経CG	工情報
日本社会精神医学会雑誌	医神精
廃棄物学会誌及び廃棄物学会論文誌	図生物
ビレッジ	農農計
文学	図文学
臨床画像	病中放
臨床精神医学	医神経
臨床精神病理	医神経
臨床と薬物治療	病薬剤
老年精神医学雑誌	医神経
Innervision	病中放
Japanese journal of sports sciences	医短保
Networks	工情報
Sportsmedicine	医短保
Training journal＝月刊トレーニング・ジャーナル	医短保
Annual review of applied linguistics	養英語
Applied linguistics	養英語
British journal for the history of science	養科学
Capitalism, nature, socialism	養科学
Chemical senses	農家生
Clinical child psychology and psychiatry	医分館
Cognition and instruction	教物理
Cognitive science	教物理
Computers and the humanities	養英語
Current contents on CD-ROM: Life sciences	医分館
Current contents on CD-ROM: Clinical medicine	医分館
Fish physiology and biochemistry	教生物
Francais dans le monde	養仏語
Francis bulletin signaletique 523	養仏語
Industrial education	教技職
Journal of applied sport psychology	教体育
Journal of computational physics	工共通
Journal of experimental zoology	教生物
Journal of fermentation technology(JPN)	図生物
Journal of memory and language	養英語
Journal of morphology	教生物
Journal of vestibular research: Equilibrium & orientation	医反射
Journal of orthopaedic science	医分館
Journal of the history of medicine and allied sciences	養科学
Journal of the royal statistical society: Series D	工情報

Journal of visualization and computer animation 工情報
Language in society 養英語
Metaphor and symbolic activity 養英語
Nature medicine 医分館
Postharvest biology and technology 図農学
Pragmatics & cognition 養英語
Precision engineering 図機械
Research in philosophy & technology 養科学
Seminaire de theorie des nombres de bordeaux: Ser.2 工共通
Studies in second language acquisition 養英語
Technology and culture 養科学
Tribology international 図機械
VR world 工情報
Veterinary immnunology and immunopathology 農病院

〈購入中止雑誌〉

誌名	配架
医用電子と生体工学	図畜産
英語青年	教英語
衛生化学	医分館
エレクトロニク・セラミクス	図電気
科学	養生物
化学と生物	養生物
家計調査報告	教家政
家庭科	教家政
家庭科学	教家政
看護学雑誌	医短
看護教育	医短成
看護研究	医短基, 医短成
季刊音楽教育研究	教音楽
切抜き速報：教育版	養心理
近代柔道	教体育
月刊海洋	図理工
サッカーマガジン	養保体
雑誌記事索引：科学技術編	図二次
雑誌記事索引：科学技術編	医分館
雑誌記事索引：人文・社会編	図二次
周産期医学	医短基
小児の精神と神経	医分館, 医短
食品衛生研究	農流通
体育の科学	医短
蛋白質・核酸・酵素	養生物
蛋白質・核酸・酵素：別冊	養生物
内科	農病院
ナーシング・トウデイ	医短
日経サイエンス	養生物, 医短
日本レオロジー学会誌	図繊維
農業岐阜	農農営
農耕と園芸	農農場
農村生活研究	教家政
物価統計月報：小売価格資料編	教家政
物価統計月報：消費者物価指数編	教家政
北京晩報	養中語
別冊日経サイエンス	養生物
モンキー	医反射
臨床血液	医分館

Brain nursing 医短
Emergency nursing 医短
Heart nursing 医短
Molecular medicine 医分子
Abstracts on hygiene and communicable diseases 医分館
Adolescence 養心理
African american review 教英語
Agressologie 医分館
American journal of psychology 図哲学
Analytical abstracts 医分館
Analytical chemistry 医分館
Annales de l'IHP: Physique theorique 養数学
Annales de l'IHP: Probabilities et statistiques 養数学
Annals of clinical biochemistry 医分館
Architectural digest 教技職
Archives des maladies professionnelles et de medecine du travail et de securite sociale 医分館
Astrophysics and space science 工共通
Bioessays 図生物
Black scholar 教英語
Boundary-layer meteorology 教地理
Bucherei des frauenarztes: Beihefte der zeitschrift fur Geburtshilfe 医分館
CC: Clinical medicine 医分館
CC: Life sciences 養生物, 医分館
CCOD: Life sciences MAC 農利用
CCOD: Life sciences NEC 5.25 医分館
CCOD with abstracts: Life sciences NEC 5. 25 農利用
C. L. A Journal 教英語
Callaloo 教英語
Canadian journal of chemistry 医分館
Canine practice 農病院
Chemische berchte 医分館
Chemistry in britain 医分館
Consumers research magazine 図家政
Cryobiology 医外2
Current mathematical publications 工機械
Developmental biology 図生物
Developmental medicine and child neurology 医分館
Drugs made in Germany 医分館
Geophysical and astrophysical fluid dynamics 工共通
International journal of psycho-analysis 教体育
International pharmaceutical abstracts 医分館
Japan times 国際交
Journal of adolescence 図哲学
Journal of cell biology 図生物
Journal of eukaryotic microbiology 図畜産
Journal of humanistic psychology 養心理
Journal of pharmacy and pharmacology 医薬理
Journal of textile institute 図繊維
Journal of the american chemical society 医分館
Journal of the chemical society: Chemical communications 医分館
Journal of the chemical society: Dalton transactions 医分館
Journal of the chemical society: Perkin transactions 1 医分館
Journal of the chemical society: Perkin transactions 2 医分館
Journal of youth and adolescence: A multidisciplinary... 養心理
Khimicheskaja fizika 養化学
LSA Bulletin 養英語
Library & informations science abstracts 医分館
Linear algebra and its applications 工情報
Mathematica journal 養化学
Midwifery 医短基, 医短
Molecular and cellular endocrinology 医分館
Molecular and cellular probes 医分館
National geographic 養化学
Naunyn-schmiedebergs archives of pharmacology 医薬理
Nuclear fusion 図物理
Nursing outlook 医短
Nursing times-nursing mirror 医短
Physics of plasmas 図物理
Plasma physics and controlled fusion 図物理
Priroda 養化学
Probability theory and related fields 養数学
Psychiatry research 医神精
Revue de laryngologie -otologie-rhinologie 医分館
Rheologica Acta 図繊維
Russian mathematical surveys 養数学
SIAM journal on mathematical analysis 工共通
SIAM theory of probability and its applications 養数学
Scandinavian journal of clinical and laboratory investigation 医分館
Scientific American New series 養化学
Stomatologija 医分館
Studies in philology: A; Quarterly journal 養英語
Track & field news 教体育
Veterinary medicine 農病院
Zeitschrift fur arztliche fortbildung 医分館

司町，那加そして柳戸へ

小林かず子

私にもやがて来る定年時期が予測されていたはずなのに，迂闊にも私はそれを忘れていた。突然定年がやってきた思いだ。今の心境は，無事定年を迎えることができたという安堵感がある一方で，一抹の寂しさを実感しているというのが正直なところである。

思えば，岐阜大学（県立医科大学を含めて）に41年10ケ月間お世話になったことになる。そのうち，昭和38年からの33年間を図書館員として勤務した。取り壊された旧附属病院外来棟の4階にあった図書館と，現在は医療短大となっている北野町にあった医進課程の図書室を，西別院の境内を横切って行き来したこともついこの間のように脳裏をかすめる。司地区では2度の医学部分館の引越しと医学図書館協会総会当番館が思い出される。事務局も含めて26年半をこの地区で過したことになる。那加分館では大学の統合移転に伴う移転準備に終り，統合地の柳戸地区では，大規模な資料の配架作業等を終え，無事，図書館竣工の式典に間に合わせられたこと，その後の旧長良分館の統合による受入れ作業，また昭和50年から進めてきた図書館業務の電算化，平成4年以降の図書館パッケージソフトの導入，電算機器更新など苦労の中にも楽しく仕事ができたことは今となっては懐かしく思い出される。

大学構内の木々も13年を経て大きく成長している。白亜の建物の中にあって唯一つ煉瓦色の立派な図書館に勤務するのも後少しとなった。情報化社会の到来とともに大学図書館は大きく様変わりした。さらに，今後もますます情報処理技術の進歩によって図書館のサービスは多様化するであろう。私のようなメカに決して強くはないタイプの図書館員には良い潮時なのかも知れない。

私には特に定年後の生活設計などというものはない。それでも，子育ての大変さもいずれ終わることを視野に置いて人生の設計を心掛けてきた。子供が巣立ち，夫婦の定年をむかえて暇ができたら，あれもこれもしようと思い描いていた。定年後は『夫と楽しくゴルフ・旅行・グルメでも』と夢見ているが実現できるだろうか。我が家も高齢化社会に違わず，本格的な老親の介護期間になりつつある。何が起こるか分からない長寿社会にあって，生活設計は不透明であるかも知れない。しかし，自分白身の目標と人間関係，活動の場を確保することだけは心掛けるつもりでいたい。

最後になったが，大過なく今日を迎えることができたのは，私の周囲の多くの皆様方のお陰であると心から感謝している。本当に長い間ありがとうございました。

（こばやし　かずこ：情報管理課専門員）

お　知　ら　せ

・新着CD-ROMのご案内

医学部分館では，次のCD-ROMを新たに購入しましたので，ご利用ください。

○ JCR on CD-ROM

Impact Factor の収録で知られている Journal Citation Reports の CD-ROM版。

メニュー方式により，各雑誌のランキングや引用雑誌等を即座に検索することができます。

○ Current Contents on CD-ROM

抄録誌 Current Contents の CD-ROM 版。カレント情報を毎週1枚のディスクで毎週提供します。論文の抄録参照，抄録からのワード検索も可能です。

分野：Life Sciences, Clinial Medicine

・ビデオテレビ及びレーザーディスクプレーヤーの設置について

医学部分館では，ビデオテレビ2台，レーザーディスクプレーヤー1台を3階閲覧室に設置しました。

岐阜大学附属図書館報「寸胴」第18号　1996年2月29日
編　集　委員長：梶山雅史　委員：大橋英雄，熊谷吉治，山崎捨夫，森生也，小林かず子，上口正昭
発　行　岐阜大学附属図書館
〒501－11 岐阜市柳戸1番1　☎058－293－2184